

現行母子保健システムの分析・評価・改善に関する研究

分担研究者 高橋悦二郎

総括

本研究班の内容は広範多岐に渡るが、昨年度に続き、更に調査研究をすすめて、昭和59年3月9日「昭和59年度研究報告会」が行なわれた。

現行母子保健システムの改善目標を設定し実施する事によって、乳児死亡率を減少させた和歌山県の研究報告等、成果をおさめつつある例も報告された。

まだ研究第2年目の事でもあり、結論が得られ、それがすぐ行政に役立つとは言い兼ねるが、何等かの目安が得られつつあるように感じている。

昨年同様、自治医科大学附属病院長 松本清一先生、愛育研究所 宮崎叶先生、聖心女子大学 岡宏子先生に評価委員をお願いし、宮崎先生からは貴重な講評を頂いた。本書に掲載し厚く謝意を表する次第である。

次に本年度の個々の研究成果について概略する。

1 母子健康手帳の改訂に関する研究

1-1 高橋他は、今迄母子健康手帳の改訂すべき点として取り上げられたものを整理し、実際に使われる新らしい母子健康手帳を作ろうとした。

1-2 京都府の尾崎らは、母子保健と学校保健の繋ぎとしての母子手帳のあり方を考えるため、府下の小学校養護教諭に対して、アンケート調査を行った。

1-3 愛媛県の金森らは、保健所における3歳児健診受診児の保護者を対象として、活用状況をアンケート調査した。また、実際の記載状況を項目別に調査し、点数評価を試みた。

1-4 三重県の石須らは母親と小児科医に利用実態を、母親、小児科医、産婦人科医には改訂に対する意見を求めた。

2 母親学級における精神心理面および栄養に

関する指導方針に関する研究

高橋他は、乳幼児を持つ母親を対象にした母親学級について、(1)実施している側(全国の保健所、市町村の抽出)(2)指導する立場の保健婦、栄養士、(3)乳幼児を持つ母親自身のそれぞれを対象に調査を行った。その結果より、母親の期待に応えられる内容、学習法、講師選び、等についての検討課題を指摘した。

3 諸外国の母子保健制度に関する研究

堀口らは、昨年報告した42項目169カ国のデータを統計学的検討を加えた。また欧米主要5カ国の内、英国とスウェーデンについて、母子保健制度及びそれにかかわる諸活動に関する調査をまとめた。

4 特殊ミルクの安定供給に関する研究

青木らは登録特殊ミルクを使用している医療機関に関して追跡調査票を送り、回収されたものについて検討し、過去5年間の使用量の変動、治療されている疾患の内容などについて示した。

5 乳幼児保健指導に関する研究

5-1 福岡県の園田は、大都市周辺の町の乳幼児健診について考察するため、1歳6カ月健診に来所した保護者(主に母親)に対して調査を行った。母親による検診の評価を知ることができた。

5-2 広島県の稲葉は、「脳性マヒの発生予防、早期発見」に乳健、母子訪問指導がどのように機能しているか調査した。対象は障害療育機関を受診したものの内県保健所管内に住所地があるもので、カルテ、乳健受診状況、母子訪問状況から調査分析した。

5-3 鳥取県では小田らが、低出生体重児の3歳児健診状況を調査し、さらに未受診児の調査も行い、鳥取県の全低出生体重児の発達状況をとらえようとした。

5-4 富山県砺波市では尾山らが、新生児訪

問指導の評価を行うことを目的に調査、検討した。対象は砺波市の2カ月児健診に来所した母親である。

5-5 東京の高野らは、新生児訪問指導の効果に付いて、東京、福岡、沖縄の各地域を対象に2つの調査を行った。1つはアンケート調査による母親の訪問指導に対する評価で、1つは訪問記録と各種乳幼児健診などの結果との照合である。

5-6 東京の加藤らは、東京へ里帰りをして分娩した母親に対して実態調査を行い、昨年度調査結果（東京から他府県への里帰り分娩と非里帰り）を対照して検討した。

6 和歌山県における母子保健システムと乳児死亡に関する研究

小泉らは、和歌山県における地域母子保健システムの分析結果から、改善目標を設定し実施された諸施設について調査し、更に保健医療システムの効率化、有効化を計ることを試みた。又、県ならびに市町村保健婦を対象に、妊産婦、新生児の保健指導に関する質問調査を行った。

7 乳幼児の身体発育に影響を及ぼす要因と条件に関する研究

高石らは、保育園児207名（1歳～6歳）を1年間に渡り、月1回17種の身体計測を行い、統計処理を行い、乳幼児の頭部計測方法を検討した。その結果、乳幼児の頭部計測においては計測点の確認が必要で、明確な計測点として眉間点の適用が適切であるとした。

8 環境汚染の母子保健に及ぼす影響（油症）

長崎県の辻らは、昭和43年以降PCB汚染油摂取の母親から生まれた児についての新生児期及び乳児期の異常をアンケートにより調べ、奥村らは昭和44～46年に生まれた生徒の歯牙の発育について追跡調査を行った。いずれも異常は少なくなってきたと考えられた。

9 小児慢性特定疾患の分類と運用に関する研究

加藤らは小児慢性特定疾患の医療費補助となるべき疾患の分類と、制度上の問題点につき検討した。疾患は特に内分泌疾患、糖尿病、慢性心疾患に焦点を当てた。

10 小児の食事と血清脂質との関連に関する研究

10-1 大國らは沼津市の小中学生における血清脂質値の地域差とその成因について海浜、市街中心、周辺の各地区に分けて検討した。

10-2 楠らは小児肥満の動態を知るため10年前と最近との肥満児の変動について、食品群別の分析を行い、同時にそれぞれの要素と血清脂質、肝機能とのかかわりあいについても検討した。

10-3 村田らは、首都圏近郊都市の保育園児を対象に、肥満度、血圧、血清脂質を測定し、検査結果で異常を呈した児に対して、栄養調査を実施し、血清脂質との関係について検討した。

10-4 梁は沼津市の小中学生について、食事習慣の差の解明の為に血中微量元素が判定に役立つかと考え、調査した。

10-5 寿円は沼津市の児童生徒の食品の質的問題として(1)脂肪酸及びコレステロールの取方、(2)食品群別摂取量について地域別に検討した。

11 新しい母子保健指標策定のための資料解析

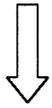
横田らは、59年12月以降出産の87例につき、周産期調査票を用い児の出生体重、身長と父母の体重、身長との相関関係、妊婦の食物摂取傾向についての報告をした。中間的報告である。

12 一保健所管内の過去5年間の乳児死亡の要因分析結果

山口県の長崎らは、一保健所管内の過去5年間の乳児死亡例を、生存時間グループ別に分け、出生体重、在胎週数、出生順位などの要因による分析を行った。また死亡ケースの救命可能性についても記録を分類検討した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



総括

本研究班の内容は広範多岐に渡るが,昨年度に続き,更に調査研究をすすめ,昭和 59 年 3 月 9 日「昭和 59 年度研究報告会」が行なわれた。現行母子保健システムの改善目標を設定し実施する事によって,乳児死亡率を減少させた和歌山県の研究報告等,成果をおさめつつある例も報告された。まだ研究第 2 年目の事でもあり,結論が得られ,それがすぐ行政に役立つとは言い兼ねるが,何等かの目安が得られつつあるように感じている。